

中国出土文献研究会主催 特別講演会

平成 27 年 12 月 19 日（土）午後 2 時～5 時 30 分（受付は午後 1 時 30 分～）

大阪大学文学部中庭会議室、参加費無料

講演

- (1) 曹方向氏（安陽師範学院講師、現在、日本学術振興会外国人特別研究員）
- (2) 佐藤將之氏（台湾大学教授、現在、東京大学東洋文化研究所訪問研究員）

懇親会 同日午後 6 時～8 時、大阪大学待兼山会館、懇親会費 5,000 円（学生 2,000 円）

主催：中国出土文献研究会

共催：漢字学研究会、中国古算書研究会

申し込み・問い合わせ 大阪大学中国哲学研究室 湯浅邦弘 yuasa@let.osaka-u.ac.jp

講演者紹介

曹方向

〈プロフィール〉

1985 年中国湖南省岳陽市生まれ。武漢大学簡帛研究中心（修士・博士、ともに歴史学）を経て、2013 年 7 月に安陽師範学院文学院講師に着任、2014 年 11 月より日本学術振興会外国人特別研究員に採用（大阪大学中国哲学所属）。専門は、中国歴史文献学、古文字学。共著に、『秦簡牘合集』第 2 卷（武漢大学出版社、2014）、主要論文に、「上博簡《昭王毀室》“誰人”的官稱問題」（『簡帛』第 7 輯、2012）、「清華簡『繫年』および郭店楚簡『語叢（一）』の「京」字に関する一考察」（『中国研究集刊』第 58 号、2014）など。

〈講演テーマ〉

「戦国文字と伝世文献に見える「文字異形」について」

（中国語題目：「戦國文字和傳世文獻所見“文字異形”的一個實例」）

中国語（日本語通訳あり）

〈要旨〉

戦国時代の諸侯国の文字には「異形」の現象が見え、これは古文字学の領域では基本的な共通認識である。中でも典型的な「異形」の例は、三晋系の「百」字の一種の写法が「全」字に非常に近いというものである。発表者は以前、『呂氏春秋』慎勢篇の「賢雖十全」の「全」は「百」の意味で用いられており、これは秦国編纂の典籍中に残った六国古文である可能性を指摘した。本発表では、『呂氏春秋』や近年公開された清華大学蔵戦国竹簡『良臣』などに見える「全」字に近い文字の用例をもとに、典籍中に残る戦国時代の「文字異形」の現象について再検討していきたい。

佐藤將之

〈プロフィール〉

1965 年神奈川県川崎市生まれ。青山学院大学国際政経学部卒。台湾大学（政治学修士）、ソウル大学（政治学修士）を経て、オランダ・ライデン大学にて哲学博士。ライデン大学講師、台湾大学哲学系助理教授、同副教授を経て、2014 年より同教授。主な研究テーマは中国古代思想で、特に荀子の政治思想や古代の政治概念、それに戦国楚簡の思想など。著書には、*The Confucian Quest for Order : The Origin and Formation of the Political Thought of Xun Zi* (Leiden: Brill Academic Publishers, 2003)、『中國古代的「忠」論研究』（臺北：國立臺灣大學出版中心，2010）、『荀子禮治思想的源淵與戰國諸子之研究』（臺北：國立臺灣大學出版中心，2013）や関連論文多数。

〈講演テーマ〉

「荀子思想の現代のおよび時代的意義とその研究の課題」

〈要旨〉

二十一世紀を生きる我々にとって、荀子という思想家、あるいは『荀子』という書物は、どのような意味を持つのであろうか。まず荀子思想の意義について、本講演ではまず荀子の思想がなぜ我々にとって重要になりうるのかを問い、荀子の人間理解は二十一世紀に生きる我々もまだ十分に学ぶべき内容に富むと主張する。荀子の思想が「礼論」をとおして、漢代以降の東アジア政治、社会、倫理に巨大な影響を及ぼしており、我々東アジア社会の特質を知るためにも荀子思想の理解は不可欠である。荀子思想研究の課題については、荀子思想の重要性、特にその礼治思想の理論家としての役割が六朝時代以降徐々に忘却され、その忘却と反比例して、「性説」という限られた側面のみが「性悪説」（つまり人間の本性は悪である）という一種誤解された形で広まり、宋儒以来の一千年におよぶ誤解と批判にさらされた点をまず理解したい。したがって、新たな荀子理解を目指すためには、「性悪論」の提唱者としてのイメージに覆われた荀子像をまず解体し、それに代わってその思想の「総合性」、「礼」概念、「変化論」（「誠」も含めて）等を明らかにする必要がある。荀子思想の意義を語ることは、このような思想研究の作業の上に築かれなければならないだろう。